



## 名探偵カッレくん

リントクレ

リンドグリーン 作 尾崎義 訳 岩波書店

いつも名探偵になるための修行をかかさないカッレくん。でも、カッレくんの住むストゥールガーテン街は、平和そのもの。犯罪のにおいなど全くしないのです。ところがある日、隣に住んでいる女の子エーヴァ・ロッタのおじさんが街にやってきます。このエイナルおじさん、どことなく怪しいとカッレくんの第六感がささやきます。さて、この推理は正しいのでしょうか。手に汗にぎる展開が待ち受けています。

## モモ

一時間どろぼうと ぬすまれた時間を人間に  
とりかえてくれた女の子のふしぎな物語—

エンデ

ミヒャエル・エンデ 作 大島かおり 訳 岩波書店

ある時、小さな円形劇場の廃墟に少女が住みつきました。くしゅくしゅの巻き毛で、いつもはだし、スカートもつぎはぎだらけのモモです。でも、モモのまわりはいつも友だちでいっぱい。それは、モモのそばにいただけで、みんなが幸せで楽しい気分になるからです。ところが、町に少しずつ灰色の影が忍び寄り寄ってきていました。人間の時間を奪って生きる灰色の男たちと、モモとの戦いが始まります。



## 森は生きている

マルシヤク

サムイル・マルシヤーク 作 湯浅芳子 訳 岩波書店

今年も終わり、明日は新年という日、女王はおふれを出しました。4月に咲く花、マツキソウをかごいっぱいにして城に届けよ、というのです。持っていくとほうびを与えられます。ママ母からマツキソウを探してくるように言われた娘は、雪の降る森へ出かけてゆきました。吹雪の中、寒さに凍えていると森の奥に明かりを見つけます。そこにいたのは、たき火にあたっている12の月の精たちでした。

## 床下の小人たち

【小人の冒険シリーズ】

ノトン

メアリー・ノートン 作 林容吉 訳 岩波書店

安全ピンやマチ針、えんぴつやマッチ……いつのまにか家の中からなくなってしまうものがあります。それは、借り暮らしの小人が住んでいるからかもしれません。古い家の床下に、小人のアリエッティとその家族は住んでいました。初めて外の世界へ借りに出ることになったアリエッティ。家の中も外も、目に映るすべてが輝いてみえます。ところが、その姿をこの家に住む男の子に見られてしまいました。



## ライオンと魔女

【ナルニア国物語】

ルイス

C.S.ルイス 作 瀬田貞二 訳 岩波書店

ピーター、スーザン、エドモンド、ルーシーの兄弟は、預けられたお屋敷で探検している時、大きな衣装ダンスを見つけます。中に入って毛皮の外套の間にぬけると、なんと雪が降り積もった森に出たのです。そこは白い魔女が支配する「ナルニア」という国でした。そこで仲良くなったフォーンが、魔女に捕らえられてしまいます。永遠に冬のナルニアとフォーンを助けるため、兄弟たちは森の王アスランに会いに行くことになりました。



## 若草物語

オルコット

L・M・オールコット 作 矢川澄子 訳 T・チューダー 画 福音館書店

裕福ではなくとも、両親からあふれんばかりの愛情と教育を注がれて育った4人の「小さなご婦人」。今年は、プレゼントのないクリスマスを過ごさなくてはなりません。一番上のメグは、美人で夢見がちな16歳。活発で元気なジョーは、15歳。家庭的でやさしい、三女のベスは13歳。甘えん坊の末っ子エイミーは、12歳。この個性豊かな姉妹は、時にはぶつかり、けんかもし、それでもお互いを必要としながら成長していきます。

